

ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版）, No.87, February 2015

ARSC 事務局：〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126

NITTO ビル (株)メッツ研究所内

応用地域学会 文部科学省学会コード=10023

会長： 中村良平 担当：宮本成雄

TEL: (03)5227-7804

FAX: (03)5227-7807

E-mail : clerk@arsc.org

主要項目： 2015・2016 年度副会長選挙案内
 第 28 回研究発表大会報告
 2014 年度坂下賞
 2014 年度応用地域学会論文賞
 第 29 回研究発表大会のご案内
 第 5 回アジア地域科学セミナーのご案内
 2015 年度会費納入のお願い
 総会報告

1. 2015・2016 年度副会長選挙案内

選挙管理委員 高塚 創 (香川大学)
 横井涉央 (東北大学)

応用地域学会会則第 7 条により、現会長中村良平教授(岡山大学)の任期が 2015 年 3 月 31 日で満了となり、引き続き、現副会長文世一教授(京都大学)が会長に就任されます。

それに伴いまして、次期(2015 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)副会長の選出を、会則第 7 条および応用地域学会選挙内規Ⅱに基づき実施いたします(注)。内規に基づき、副会長候補者選出のために実施された、運営委員による投票の結果、次の 4 名の方が次期副会長候補者に選出されています。(苗字アイウエオ順、敬称略)。

安藤 朝夫 (東北大学) 大澤 義明 (筑波大学)
高橋 孝明 (東京大学) 森 知也 (京都大学)

副会長選挙は、この4名を候補者とし、全会員の投票（投票はがきの郵送）により1名を選出します。なお、投票の結果、1位の者が同票の場合は、選挙管理委員がくじで定めることとします。

投票はがきには、上記候補者の氏名があらかじめ印刷されていますので、次期副会長に適任であると思われる方1名に、○を付してご投函ください。

投票の締め切りは、2015年3月10日（火）（当日消印有効）です。

なお、会則7条では、副会長の次期会長への自動昇任を規定しており、今回選出される副会長の、会長としての就任期間は2017年4月1日～2019年3月31日となります。

（注）会則第7条および選挙内規Ⅱでは、運営委員による無記名2名連記の投票によって得票順に3名の候補者を選出し、この候補者から、全会員の無記名单記の投票によって副会長1名を選出することとしております。今回の選挙では、運営委員による選挙で得票順3位が複数であったため、3位までの4人を候補者（固辞者は除く）としました。

2. 第28回研究発表大会報告

大会実行委員長 岩橋 培樹（琉球大学）

1. 大会概要

第28回応用地域学会沖縄大会は、2014年11月29日（土）、30日（日）の2日間にわたり那覇市の産業支援センターにおいて開催されました。大会では、会員による研究成果発表の場である研究発表セッションに加え、一般向けの公開シンポジウム、坂下賞講演、総会が行われました。2日間の開催期間中に会員のみで175名、シンポジウムへの一般参加も含めれば200名以上の参加者がありました。大会の実施・運営は、私と大城淳先生（沖縄大学）が担当し、プログラム編成は森知也先生を委員長とするプログラム委員会が担当しました。

2. 研究発表大会

研究発表大会では、計6つのセッション会場が設けられ、2日間に87編の研究論文が報告されました。一般セッションでは「都市経済」「地域経済」「交通」「国際経済」「インフラ老朽化」「労働市場」「都市計画」「輸送ハブ」「観光・娯楽」「CGE」「NEG」「防災」「資源・環境」「不動産市場」「経済集積」「アジア経済」「航空産業」「重複世代の経済」をテーマにした研究成果報告が行われました。Early Birdセッションでは大学院生による11編の研究報告が行われました。また、沖縄大会ということで「沖縄経済」をテーマとした特別セッションが組まれ、「沖縄県の産業政策の現状と展望」、「沖縄経済振興を探る構造改革と政策シミュレーション」、「日本の輸送玄関、那覇ハブ空港の可能性」、「沖縄本島における経済的東西格差に関する考察」と題した研究成果がそれぞれ報告され、沖縄県の持続的地域発展の可能性について議論が行われました。

3. 一般公開シンポジウム

研究発表大会と並行して、「沖縄経済振興のこれまでとこれから ～県民所得は向上するか～」と題した一般向けの公開シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムでは、安里昌利氏（沖縄県経営者協会会長、沖縄銀行会長）、上原良幸氏（沖縄コンベンションビューロー会長）、富川盛武氏（沖縄国際大学教授）、長浜真吾氏（沖縄タイムス経済班キャップ）という、沖縄県の経済界、学界、それに行政、マスコミをそれぞれ代表する4名をパネリストとして招き、中村良平会長を加えた5名により、パネルディスカッション形式で沖縄経済の現状、課題および将来の可能性について積極的な議論を行いました。沖縄地域振興をテーマとしたパネルディスカッションを通して、沖縄県経済の現状についてシンポジウム参加者がより理解を深め、今後の課題や可能性について考える機会になれば幸いに思います。

4. 坂下賞記念講演

2013年度坂下賞受賞者の隅田和人先生が、「住宅価格変動の計量経済分析」と題して講演されました。本講演では、住宅ローン減税として知られる税制が住宅需要の増加を通じて、品質調整済中古マンション価格指数を上昇させているのかについて1992年～2014年にかけての首都圏のパネル時系列データを用いて実証した結果が紹介されました。結論として、住宅ローン減税制度の拡大期には中古マンション価格が低下する傾向にあること、長期的には中古マンションの需要・価格が上昇する可能性を指摘しています。それに加えて、住宅価格が住宅ローンを下回る場合、非遡及型融資制度のもとでは住宅価格の変動が大きく、一方で、遡及型融資制度のもとでは住宅価格の変動が小さいことを実証的に明らかにしました。

5. 総会

坂下賞記念講演終了後、2014年度の総会が開かれました。2014年度活動報告及び学会活動方針、会員異動報告、2013年度決算および2015年度予算が承認されました。

続けて、2014年度の坂下賞が、円山琢也先生に与えられました。受賞理由は、Regional Science、交通計画学・土木計画学の分野において理論的研究・実証的研究を進め、国内外の学術誌に多数の査読付き論文を発表するとともに、研究成果の交通計画実務への反映に努めている点が評価されたものです。続けて、2014年度の応用地域学会論文賞が森本裕氏の「交通アクセス改善が観光サービス産業の集積に与える影響」（応用地域学研究 No. 18 2014）に与えられました。本論文は、交通アクセスの改善が観光産業の集積や観光地間の競争に与える影響について、新経済地理学モデルを用いて分析したもので、2006年の観光立国推進基本法の制定を受けて観光産業の推進が課題となっている我が国の観光政策を考えるうえで有用な論文となっていることが評価されました。最後に、第29回研究発表大会は平成27年11月28日（土）、29日（日）の日程で慶応大学にて、第5回アジア地域科学セミナーは中国地域学会（RSAC）主催のもとハルピン市（日程未定）にて、それぞれ開催されることが報告されました。

3. 2014 年度坂下賞 (Sakashita Prize)

2014 年度坂下賞選考委員会 委員長 小林潔司(京都大学)

2014 年度の坂下賞は、円山琢也先生(熊本大学)に決定しました。

坂下賞受賞者

円山 琢也 (熊本大学政策創造研究教育センター)

(1976 年 8 月生)

受賞理由：

円山琢也君の主たる貢献は、Regional Science, 交通計画学・土木計画学の分野において、理論的研究・実証的な研究を進め、国内外の学術誌に多数の査読付き論文を発表するとともに、研究成果の交通計画の実務への反映を行っている点にある。

より具体的には、まず交通需要の集計レベル別の便益指標が厳密な積分による理論値では一致するが、一般に利用される台形公式による近似値では一致しないという政策的に重要な性質を実証的に明らかにしている (土木学会論文集 D, 2006)。この実証分析においては、同君が構築した交通需要統合型ネットワーク均衡モデルの大規模都市圏への適用研究が基盤になっており、ミクロ経済学的根拠をもった道路投資の需要予測・便益評価の体系を提示している。

また、代表的な次善の道路混雑課金政策であるエリア課金とコードン課金の違いを的確に表現できるトリップチェーン均衡モデルを提案し(Transportation Research Part A, 2007)、最適課金領域の設定法など関連した分析を続けている。さらに、2012 年度熊本都市圏パーソントリップ調査 (交通実態調査) と連携し、スマートフォンを活用した新たな交通調査法の開発と試行に取り組んでいる。調査対象者の負担を軽減しながら、既存の紙面による調査法を補完し、より奥深い行動理解が可能となるデータの収集法であり、今後の発展が期待される。

以上より円山琢也君の研究活動は、ミクロ経済学的根拠に基づく交通需要予測・便益評価に対する理論面・実証面での貢献に加え、新たなデータの収集法についても、実務者と共同活動で成果を挙げている特徴がある。また本学会の年次大会プログラム編成委員の経験など、学会の運営への貢献も少なくない。よって円山君を本年度の坂下賞受賞者として決定した次第である。

代表的業績：

・ Maruyama, T. and Sumalee, A. (2007) Efficiency and equity comparison of cordon- and area-based road pricing schemes using a trip-chain equilibrium model, Transportation Research Part A, 41(7), pp. 655-671.

・ 円山 琢也 (2006) 交通需要のレベル別便益指標の一致性, 土木学会論文集 D, Vol. 62, No. 3, pp. 460-473.

・ Maruyama, T., Mizokami, S., and Hato, E. (2014) A smartphone-based travel survey trial conducted in Kumamoto, Japan: An examination of voluntary participants'

attributes, *Transportation Research Board 93rd Annual Meeting Compendium of Papers*, #14-0997, Washington D.C.

2014 年度坂下賞選考委員会 委員長 小林潔司(京都大学)
委員 浜口伸明、曾 道智、
中村良平、文 世一

坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、円山琢也氏には、中村良平会長から、表彰状（盾）と金一封が授与されました。

4. 2014 年度応用地域学会論文賞(Best Paper Award of ARSC)

2014 年度応用地域学会論文賞選考委員会 委員長 大澤義明

選考委員会では、応用地域学研究ならびに RURDS に掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2014 年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとした。

授賞論文

森本裕「交通アクセス改善が観光サービス産業の集積に与える影響」

応用地域学研究 No. 18 (2014) PP. 29-40 .

選考理由

本論文は、交通アクセスの改善が観光産業の集積や観光地間の競争に与える影響について、新経済地理学モデルを用いて分析したもので、2006 年の観光立国推進基本法の制定を受けて観光産業の推進が課題となっている我が国の観光政策を考えるうえで有用な論文となっている。先行研究と比較して、本論文では財ではなく人が移動する、消費者は対価を払うことなく景色や文化などから効用を得るという観光の特性を組み込んだモデルを提案し、さらに各観光地に立地する企業数の順位が交通費用の低下により発生する可能性を示している点に大きな貢献がある。このモデルでは、消費者は、出発点である都市からまず広域的な交通機関を用いて結節点に至り、そこから複数の観光地を選んで移動するという空間構造を仮定してモデル化している。広域的な交通機関の交通条件の改善が来客数、観光企業への需要と利潤に与える影響を、短期（消費者の目的地選択は変化するが観光企業の立地は変化しない）と、長期（企業の立地の変化も許した）に分けて分析し、有用な結論を得ている。さらに結節点から先で複数の観光地を周遊できる場合についても拡張し、短期的には交通費用の低下により周遊を選択する消費者が増加するものの、長期的には周遊を選択する消費者数は増加するとは限らないという興味深い結果が示されている。

本論文は、観光産業の競争の分析を簡潔なモデルで見通し良く行っており、今後観光地間の協調を考慮したモデルへの拡張や、複数均衡の存在に関する研究への拡張も期待できるものとなっており、発展の余地が大きいと考えられる。

以上のように、本論文は応用地域学分野の標準的な手法により、現代的な課題に挑戦し、

明瞭な結論を得ることに成功した模範的な論文であり、応用地域学会論文賞にふさわしいものであると認めます。

2014年度 論文賞選考委員会 委員長 大澤義明(筑波大学)
委員 奥村 誠、堤 盛人、
中村良平、文 世一

応用地域学会論文賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、著者の森本 裕氏に、中村良平会長から、表彰状(盾)が授与されました。

5. 第29回研究発表大会のご案内

ARSC 事務局

2015年度のARSC第29回研究発表大会は、慶應義塾大学が開催校となり、大会実行委員長直井道生准教授(慶應義塾大学経済学部)を中心に、下記要領にて実施されます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 程：2015年11月28日(土)、29日(日)

(総会、懇親会は11月28日を予定)

会 場：慶應義塾大学三田キャンパス

発表申込み〆切：2015年9月初旬(予定)

論文提出〆切：2015年10月末(予定)

お問合せ：ARSC事務局

(発表申込先、および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号(6月発行予定)、メーリングリスト、ホームページ(予定)で、ご案内していきます。)

6. 第5回アジア地域科学セミナーの開催案内

ARSC事務局

アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会(ARSC)、中国地域学会(RSAC)、台湾地域学会(CRSA)、韓国地域学会(KRSA)が共催して、第5回アジア地域科学セミナーを、中国のハルビン工業大学(Harbin Institute of Technology)で開催いたします。セミナーの詳細は、Call for Papersをご覧ください。ARSCからの参加は、ARSC事務局がまとめて申し込みます。添付の参加申し込み書に必要事項を記し、送付してください。皆さま、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

(アジア地域科学セミナーは、上記4カ国学会の共催で、第2回より、各国持ち回り開催となり、第2回は、日本(ARSC)、第3回は、台湾(CRSA)、第4回は、韓国(KRSA)が、開催担当(主催)となり、第5回は、中国(RSAC)が開催担当(主催)となります。)

(1) 第5回アジア地域科学セミナー概要

- ①日程：2015年7月17日(金)～20日(月)
- ②場所：ハルビン工業大学(Harbin Institute of Technology, 中国ハルビン市)
- ③セミナー参加費：一般 150 USドル (学生 75 USドル)
- ④開催担当：中国地域学会(Regional Science Association of China)

(2) 論文発表、参加の申込み

ARSCからの参加は、ARSC事務局で取りまとめて、申し込みをいたします。論文発表の有無にかかわらず、**別添の参加申込書**に必要事項を記し、clerk@arsc.org(応用地域学会事務局 宮本)まで、お送り下さい。

論文発表を申し込む方は、発表論文のアブストラクト(英文; タイトル、著者、キーワード、概要)を、申し込み票に記し、**2015年4月10日(金)**までに、提出してください。

論文発表無しでのセミナー参加の申し込みも、原則、4月10日(金)までとします。

(3) 発表論文の提出

発表論文の提出締め切りは、2015年5月31日(日)です。論文提出に関しましては、改めてご案内いたします。

7. 会員の入退会

ARSC事務局

2014年度総会(2014年11月29日)において、前回総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました。(順不同・敬称略)

入会(一般14名)

陳 延天(中部圏社会経済研究所)、樋野誠一((一財)計量計画研究所)、尾崎雅彦(大阪大学)、佐原あきほ((株)価値総合研究所)、大塚芳宏(長崎県立大学)、生安 衛(川西こども家庭センター)、荒渡 良(名古屋大学)、松尾美和(早稲田大学)、鳥海重喜(中央大学)、牛島光一(筑波大学)、中嶋 亮(慶應義塾大学)、梅溪健児(政策研究大学院大学)、松原昌彦(沖縄県)、田中健一(慶應義塾大学)

(学生15名)

巖 先鏞(筑波大学)、金 銀河(明海大学)、内藤孟史(明海大学)、佐藤惣哉(青山学院大学)、地主遼史(神戸大学)、稲田啓佑(中央大学)、肖 禹(東京工業大学)、林 遼平(広島大学)、加藤隼人(一橋大学)、池田真洋(東北大学)、大津優貴(大阪大学)、坂井勝哉(東京工業大学)、當麻雅章(大阪大学)、佐野穂先(大阪大学)、姜 哲敏(筑波大学)

同時に以下の方々の退会が承認されました(敬称略)。

退会（一般 16名）

碓井健寛(創価大学)、山根智仁(大阪商業大学)、吉村 弘(北九州市立大学)、大塚章弘(電力中央研究所)、原田 昇(東京大学)、浅井宏益(北陸電力)、小林秀二(明海大学)、安野貴人(株ニュージェック)、谷村秀彦((財)国際東アジア研究センター)、北浦康嗣(法政大学)、石川修一(神戸学院大学)、趙 来勲(神戸大学)、川端基夫(関西学院大学)、島本海賢(水戸工業)、来間玲二(東京大学)、佐藤真行(京都大学)

(学生 5名)

横地浩紀(名古屋大学)、コムローシ エバ(鳥取大学)、濱津桃子(筑波大学)、小笹俊成(広島大学)、長澤明人(東北大学)

(海外 2名)

目良浩一、Quigley, John M. (University of California)

この結果、2014年11月29日現在の会員数は、下表のとおりとなります。

(一般会員 434人、学生会員 53人、海外会員 6人、賛助会員 6法人(8口))

		2013年12月	入会	退会	転格	2014年11月
個人会員	一般会員	424	14	-16	12	434
	学生会員	55	15	-5	-12	53
	海外会員	8	0	-2		6
	合計	487	29	-23	0	493
賛助会員		6(8口)	0	0	0	6(8口)

8. 2015年度会費納入のお願い

ARSC 事務局

会員データベースに基づいて発行された請求書をお送りします。ご請求額を2015年4月30日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい(clerk@arsc.org)。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳(対象年度等)を必ずご記入下さい。(振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。)

(1) ARSC 会費

2015年度会費は、一般会員 10,000円、学生会員 5,000円、賛助会員 1口 50,000円です。また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60です。(RURDSは、全員に配布)。海外会員または、海外居住者で、国内会員と同等のサービスを受ける場合は、一般会員、学生会員と同じです。

なお、海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出されたUSドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

(2) RSAI (国際地域学会) 会費

2015年のRSAI会費は、 一般会員： ¥1,200円 学生会員： ¥800円 です。

<RSAI 会費とサービス>

RSAIの会員に対するサービスは、以下のようになっております。応用地域学会を通じて、RSAI会員である方は、ARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

なお、2015年から、RSAIの会員サービスが変更となり、ジャーナル等のプリントの郵送サービスが廃止され、オンラインサービスのみとなりました。(従来の会員区分Aはなくなり、会員区分Bのみとなります。)

<サービス内容>

- Papers in Regional Science (PiRS) 、ニューズレター等のオンラインサービス
- Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- RSAIホームページへのアクセス
- RSAIの会議への参加費割引
- メンバーリストへのアクセス

<RSAI 会員の継続・入退会>

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。RSAI会員に対するプリントサービスが、2015年から廃止されましたので従来の会員区分Aの方は、今(2015)年度から、会員区分B(オンラインサービスのみ)に変更しています。また、学生から一般への変更は、国内会員の移動転格に合わせます。

ARSCを通じてのRSAIへの入退会は、年1回、11月までに、翌年のメンバーリストを提出することでなされますので、毎年10月頃に、入退会・継続のご案内をするようにしていきます。

9. 総会報告

ARSC 事務局

2014年度の総会は、大会中の11月29日(土)に行われました。概要は以下の通りです。

議題及び要旨；

1) 学会活動報告及び活動方針

中村良平会長より、2014年度の活動状況と、今後の学会の運営方針が示されました。

2) 会員異動報告 (前掲)

3) 2013年度決算 (別掲)

監査委員 (内藤徹先生(徳島大学)、松島格也先生(京都大学)) の監査を受けた2013

年度決算書が報告され、原案どおり 2013 年度決算案が承認されました。

4) 2015 年度予算 (別掲)

原案どおり 2015 年度予算が承認されました。

5) 2014 年度坂下賞(前掲)

2014 年度坂下賞は、前掲のとおり、熊本大学の円山琢也氏が、授賞されました。
(前掲)

6) 2014 年度応用地域学会論文賞

2014 年度論文賞は、森本裕氏 (京都大学)「交通アクセス改善が観光サービス産業の集積に与える影響」応用地域学研究 No.18 が、受賞されました。(前掲)

7) 第 29 回 (2015 年度) 研究発表大会の開催について (前掲)

8) 第 5 回 (2015 年度) アジア地域科学セミナーの開催について (前掲)

9) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

①応用地域学研究

応用地域学研究会の編集委員長の大澤義明先生 (筑波大学) から、No.19 号の発刊に向けての編集状況の報告と、今後とも皆様の奮っての投稿をお願いします、との報告がありました。

②RURDS

RURDS の編集については、編集委員長黒田達朗先生 (名古屋大学) から、2013 年度に続き、2014 年度も年 3 回の発刊ができたこと、RURDS の販売は横ばい、アクセス数は、改善方向にあること、2014 年度からは、手法に新規性は乏しくてもケーススタディとしての掲載価値のある論文については、Research Note というカテゴリーを設けていること、Wiley の厚意により RURDS 独自の論文賞を授与していることなどの報告がありました。

10. 事務局だより

ARSC 事務局 宮本成雄

- 第 28 回 ARSC 研究発表大会は、沖縄県那覇市 (沖縄産業支援センター) で開催されました。大会委員長の岩橋培樹先生 (琉球大学) をはじめとし、沖縄大学の大城淳先生など、皆様のご協力をいただき、盛大に開催されました。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。また、プログラム委員長を勤められた森知也先生 (京都大学) とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、同じく深く感謝申し上げます。

大会の中での、地元沖縄のオピニオンリーダーを集めたシンポジウムには、一般も含め多数の方の参加があり、地元新聞 (沖縄タイムス) も大きくとりあげておりました。



- **副会長の選挙**です。この選挙で選ばれた副会長は、2015年度からの2年間の副会長を務められたのち、規約により、2017年度からの2年間 ARSC の会長となります。大事な選挙です。投票は、別途ご案内のとおり、送付された選挙はがきに、副会長にふさわしいと思われる方を選び、投函・郵送することによって行われます。**投票締め切りは、3月10日(火) (当日消印有効)**です。お忘れなきようお願い申し上げます。
- **会員登録情報の変更をお願いいたします。**新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ARSC ホームページにある「**会員ページ**」<<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arisc>>にログインし、変更登録をお願い申し上げます。(ログインID、パスワードをお忘れの方は、事務局<clerk@arisc.org>にお問い合わせください。)住所・メールアドレス等が変更登録されていないと、ジャーナルや、ニュースレター等が不達になるケースが多々生じておりますので、重ね重ねですが、速やかな変更登録をお願いいたします。
- **地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。**入会申込は、web 上で行えます。ARSC のホームページ(<http://www.arisc.org>)より、「新規入会」のページにアクセス、又は、直接 (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arisc>) にアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)決算

収入の部	2012年度決算		2013予算		2013決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,837,918		5,576,717		5,576,717	
2.個人会費収入	4,061,693		4,675,000	1,100.00	4,551,181	
3. RASAI会費	190,400		281,000		254,000	
4.賛助会費収入	300,000		800,000		500,000	
5.補助金等	0				0	
6.大会参加費収入	1,222,000		560,000		882,000	
(年次大会)	516,000		560,000		882,000	
(アジア地域科学セミナー)	706,000				0	
7.大会開催寄付金	0				0	
8.利子収入	413				199	
9.雑誌販売(Back Number)	11,550				92,400	
10.その他	400,000				0	
(RURDS編集補助*)	400,000				0	
(同上 前年度)					0	
収入合計	15,023,974		11,892,717	1,100.00	11,856,497	
(繰越金を除く収入合計)	6,186,056		6,316,000	88,000	6,279,780	
(*(財)昭和経済研究所より)			6,357,500			

支出の部	2012年度決算		2013年度予算		2013年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS刊行・購読費	5,114,569		3,681,400		3,536,907	
(編集経費等)	56,460		500,000		128,700	
(購読費)	5,058,109		3,181,400		3,408,207	
2.年報刊行費	865,310		900,000		578,112	
3.大会開催費	1,941,827		980,000		1,165,657	
(年次大会)	949,114		960,000		1,165,657	
(アジア地域科学セミナー)	992,713		20,000		0	
4. RASAIへの送金	229,123		281,000		315,278	
5.坂下賞	121,000		121,000		121,000	
6.論文賞	0				41,580	
7.ニューズレター等印刷費	0		20,000		0	
8.一般事務費	539,060		290,000		382,430	
(郵送費)	137,320		100,000		112,143	
(消耗品等)	17,176		20,000		21,092	
(会議費・交通費等)	363,999		150,000		241,160	
(銀行手数料)	20,565		20,000		8,035	
9.事務局費	636,368		500,000		639,020	
(事務管理・事務員費)	458,350		330,000		460,250	
(会員管理システム費)	178,018		170,000		178,770	
10.予備費			50,000			
支出合計	9,447,257		6,823,400		6,779,984	
繰越金	5,576,717		5,069,317		5,076,513	
ドル貨円換算(手数料を除く)			41,500			
繰越金合計	5,576,717		5,110,817		5,076,513	
	-3,261,201		-465,900		-500,204	

注;2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2014年 10月 9日

内藤 徹 
 松島 格也 

2015 年度予算

応用地域学会2015年度予算書						
収入の部	2013 年度決算		2014 年度予算		2015年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	5,576,717		5,076,513		5,076,513	
2.個人会費収入	4,551,181		5,175,000	700.00	5,250,000	700.00
3.RSAI会費	254,000		242,000		162,000	
4.賛助会費収入	500,000		700,000		600,000	
5.補助金(科学研究費補助等)						
6.大会参加費収入	882,000		860,000		960,000	
(年次大会)	882,000		860,000		960,000	
(地域科学セミナー)	0		0			
7.大会開催寄付金	0		0			
8.利子収入	199		0			
9.雑誌販売(Back Number)	92,400		0		30,000	
10.その他	0		0			
(RURDS編集補助*)	0		0			
	0		0			
収入合計	11,856,497		12,053,513	700.00	12,078,513	700.00
(繰越金を除く収入合計)	6,279,780		6,977,000	700.00	7,002,000	700.00
(ドル貨を含む)			7,016,000		7,051,500	
支出の部	2013年度予算		2014年度予算		2015年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	3,536,907		3,667,600		3,699,500	
(編集発行費)	128,700		550,000		550,000	
(会員購読費)	3,408,207		3,117,600		3,149,500	
2.年報刊行費	578,112	0.00	900,000	0.00	850,000	
3.大会開催費	1,165,657	0.00	1,240,000	0.00	1,310,000	
(年次大会)	1,165,657	0.00	1,220,000	0.00	1,300,000	
(地域科学セミナー)	0	0.00	20,000	0.00	10,000	
4.RSAIへの送金	315,278	0.00	242,000	0.00	162,000	
5.坂下賞	121,000	0.00	121,000	0.00	121,000	
6.論文賞	41,580		40,000		26,000	
6.ニューズレター等印刷費	0	0.00	15,000	0.00	15,000	
7.一般事務費	382,430	0.00	310,000	0.00	320,000	
(郵送費)	112,143	0.00	120,000	0.00	120,000	
(消耗品等)	21,092	0.00	20,000	0.00	20,000	
(交通費・謝金等)	241,160	0.00	150,000	0.00	160,000	
(銀行手数料)	8,035	0.00	20,000	0.00	20,000	
8.事務局費	639,020	0.00	500,000	0.00	520,000	
(事務管理・事務員費)	460,250	0.00	320,000	0.00	340,000	
(会員管理システム費)	178,770	0.00	180,000	0.00	180,000	
9.予備費	0	0.00	20,400	0.00	28,000	
支出合計	6,779,984	0.00	7,016,000	0.00	7,051,500	
繰越金	5,076,513	0.00	5,037,513	700.00	5,027,013	
ドル貨円換算(手数料を除く)			39,000		49,500	
繰越金合計	5,076,513		5,076,513		5,076,513	
収支差		-500,204		0		0

注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。